

経済状態の自己認識と健康意識・行動との関連

研究分担者	松浦 賢長（福岡県立大学看護学部）
研究協力者	丸岡 里香（北翔大学大学院人間福祉学研究科）
	仁木 雪子（八戸学院短期大学看護学科）
	加藤千恵子（名寄市立大学保健福祉学部）
	樋口 善之（福岡教育大学教育学部）
	原田 直樹（福岡県立大学看護学部）
	阿部眞理子（福岡県立大学看護学部）
	増満 誠（福岡県立大学看護学部）
	梶原由紀子（福岡県立大学看護学部）

今回、高校生と大学生を対象とし、経済状態の自己認識と健康意識・健康行動がどのように関連しているのかを把握し、健康教育のあり方を考えることを目的に分析を行った。

協力の得られた全国の高校生、大学生を対象に質問紙調査を行なった。その結果、

1. 高校生と大学生において、経済状態の自己認識に差はみられなかった。
2. 経済状態の自己認識と健康関連意識には、有意な関連がみられた。
3. 経済状態の自己認識と妊娠等に関する知識には、有意な関連がみられなかった。
4. 経済状態の自己認識と健康関連行動、月経痛経験割合には、有意な関連がみられなかった。
5. 意識・態度の変容を目的とした健康支援においては、経済格差を縮小することだけでなく、これまで育ってきた家庭や現在の生活への肯定的な見方をできるだけ多くの高校生や大学生において育む必要があると考えられた。
6. 妊娠等の知識と経済状態認識には関連がみられず、思春期・青少年が一律に知識を身につける仕組みが必要だと考えられた。

A.研究目的

健康の社会的決定要因(Social Determinants of Health)に焦点が当たってきている。今回、高校生と大学生を対象とし、経済状態の自己認識と健康意識・健康行動がどのように関連しているのかを把握し、健康教育のあり方を考えることを目的として分析をおこなった。

B.研究方法

1. 分析対象

平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金「若い男女の結婚・妊娠時期計画支援に関するプロモーションプログラムの開発に関する研究」において調査に回答のあった全国の高校生 1,866 人(6 校)、大学生 1,189 人(11 大学)、計 3,055 人のデータである。

2. 分析項目

平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業)総括研究報告書「若い男女の結婚・妊娠時期計画支援に関するプロモ-

シヨンプログラムの開発に関する研究」が作成した質問紙項目から、本分析においては、経済状態の自己認識を問う項目と、他の健康意識・行動に関連する質問項目を用いた。

3. 調査方法

全国の高校生と大学生を対象に、本研究班が昨年度作成した質問紙(平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業)総括研究報告書に記載)を用いて、質問紙調査を実施した。

全国の高校生 1866 人(6 校)、大学生 1189 人(11 大学)、計 3055 人に質問紙を配布し、自己記入式回答の後、回答用紙をすべて回収した。研究分担者が、全国の高校と大学に、保健教育などの機会を利用して実施してもらえよう依頼した。平均年齢は 17.8 ± 2.1 歳であった。

4. 分析方法

経済状態を問う設問(経済状態を以下の 5 つの層に分けるとすれば、現在のあなたの実家は、どれに入るとお考えですか)の選択肢を下記の 2 群に分けた。

1 群(上中群) . [上]、[中の上]、[中の中]

2 群(下群) . [中の下]、[下]

上の経済状態の認識(2 群)と、健康意識・健康行動を問う設問への回答との関連を²検定を用いて分析した。

有意確率は 0.05 以下とした。解析には、SPSS Ver. 19 (日本 IBM) を使用した。

(倫理面への配慮)

調査の実施に際しては、この調査の目的と趣旨の説明文書を配布し、また口頭でも十分に説明した上で、自由意思による回答協力を求めた。回答内容は学業の評価にはまったく関係なく、協力をしなかったとしても不利益を被ることは一切ない事も十分に説明した。

本研究の実施にあたっては「疫学研究に関する倫理指針」(厚生労働省)を遵守し、研究倫理

審査委員会の審査承認を受けた。(第 195 回 岐阜大学大学院医学系研究科 医学研究等倫理審査委員会 承認番号 25-268)

C. 研究結果

1. 校種と経済状態の自己認識

表 1 に校種と経済状態の自己認識の関連を示した。大学生と高校生の間に、経済状態の自己認識(2 群)との有意な関連はみられなかった。

2. 健康意識

表 2 に経済状態の自己認識と自分の健康状態の認識の関連を示した。上中群において、健康状態が良い(とても良い・まあ良い)と認識しているものが多かった($p < 0.001$)。

表 3 に経済状態の自己認識と自分の健康への関心の関連を示した。有意な関連はみられなかった。

3. 体型に対する意識

表 4 に経済状態の自己認識と自分の体型に対する意識の関連を示した。下群において、自分の体型を非常に気になると回答したものが多かった($p < 0.01$)。

4. 健康関連行動

表 5、表 6、表 7 に、経済状態の自己認識と喫煙行動、飲酒行動、運動の関連を示した。有意な関連はみられなかった。

5. 食事・食卓に対する認識

表 8 ~ 表 12 に、経済状態の自己認識と食事・食卓に対する認識の関連を示した。

上中群において、食事時間が楽しいと回答したものが多かった(表 8, $p < 0.01$)。

経済状態の自己認識と食事の待ち遠しさについては有意な関連はみられなかった(表 9)。

上中群において、食卓の雰囲気は明るいと回答したものが多かった(表 10, $p < 0.001$)。

上中群において、日々の食事に満足していると回答したものが多かった(表 11, $p < 0.01$)。

上中群において、小学生の頃食事が楽しく心地よかったという印象を持っているものが多かった(表12, $p<0.001$)。

6. 野菜摂取行動

表13に、経済状態の自己認識と野菜料理の摂取について示した。有意な関連はみられなかった。

7. 将来の生活への考え

表14～表16に、経済状態の自己認識と将来の生活への考えとの関連を示した。

上中群において、いずれ結婚するつもりと回答したものが多かった(表14, $p<0.001$)。

上中群において、将来子供がほしいと回答したものが多かった(表15, $p<0.01$)。

上中群において、自分が育ったような家庭を自分も築きたいと回答したものが多かった(表16, $p<0.001$)。

8. 妊娠等に関する知識

表17～表19に、経済状態の自己認識と妊娠等に関する知識の関連を示した。30歳過ぎの妊よう力低下については上中群において知っているものが多かったが($p<0.05$)、他の項目については有意な関連はみられなかった。

9. 避妊方法の選択意向

表20に、経済状態の自己認識と避妊方法の選択意向の関連を示した。有意な関連はみられなかった。

10. 月経痛の経験

表21に、経済状態の自己認識と月経痛の経験の関連を示した。有意な関連はみられなかった。

D. 考察

1. 校種と経済状態の自己認識

校種(高校生・大学生)と経済状態の自己認識との関連はみられなかった。2009年度に、四年制大学への進学率が初めて50%を超えた。これ

は、望めば必ずどこかの大学に入学できる「大学全入時代」「大学のユニバーサル化」と呼ばれている現象である。すなわち、大学生が社会において特別な存在ではなくなった(ユニバーサル化)ことを意味する。これは本人たちの意識にも影響を与えていると考えられ、経済状態の自己認識に高校と大学間の差異が見られなかったことの一因であると考えられた。

2. 経済状態の自己認識と健康関連の意識・態度

経済状態の自己認識と有意な関連が多くみられたのは、意識・態度を問う質問への回答であった。

経済状態の自己認識は、知識や行動よりも、意識・態度レベルに影響を与えていることが示唆された。とくに、生活習慣の基盤となる食事や食卓への意識・態度、将来の生活の基盤となる結婚や子供を持つことへの意識・態度との関連がみられていた。

これまで、たとえば内閣府による21世紀成年者縦断調査は、就労形態の違いにより家庭を持てる割合が大きく異なっていることや、年収別に男性の有配偶率をみると一定水準までは年収が高い人ほど結婚していることを明らかにした。

これらのことを合わせて考えると、経済状態の自己認識は、自分のこれまで育った家庭への態度や、毎日の生活の基盤となる食事や食卓への意識と関連しており、これらが自分の将来の結婚や家庭生活への意欲に影響していることが示唆された。

すなわち、将来の結婚や家庭生活への意欲の格差を拡大させないためには、経済格差を縮小することだけではなく、これまで育ってきた家庭や現在の生活への肯定的な見方をできるだけ多くの高校生や大学生において育む必要があると考える。

これまで育ってきた家庭や現在の生活を肯定的にとらえられるような健康支援(介入)方法の

開発が望まれるところである。

3. 経済状態の自己認識と健康関連の知識・行動

経済状態の自己認識と有意な関連が多くみられたのは、意識・態度を問う質問への回答であった一方で、健康関連の知識や行動にはほとんど有意な関連がみられなかった。

これは、経済状態の自己認識にかかわらず、妊娠に関する知識や、健康関連行動には差がみられないということでもある。とくに「年齢と妊よう力」の知識のあるものは、対象者の過半数を大きく割り込んでおり、できるだけ多くの若者(思春期・青少年)が一律に知識を身につける仕組み(普通教育における健康教育等)の構築が求められた。

E. 結論

1. 高校生と大学生において、経済状態の自己認識に差はみられなかった。
2. 経済状態の自己認識と健康関連意識には、有意な関連がみられた。
3. 経済状態の自己認識と妊娠等に関する知識には、有意な関連がみられなかった。
4. 経済状態の自己認識と健康関連行動、月経痛経験割合には、有意な関連がみられなかった。
5. 意識・態度の変容を目的とした健康支援においては、経済格差を縮小することだけでなく、これまで育ってきた家庭や現在の生活への肯定的な見方をできるだけ多くの高校生や大学生において育む必要があると考えられた。
6. 妊娠等の知識と経済状態認識には関連がみられず、思春期・青少年が一律に知識を身につける仕組みが必要だと考えられた。

謝辞

この調査研究にあたり、調査にご協力いただきました高校生、大学生に感謝申し上げます。

F. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表
 - 1) 高田昌代、宮下ルリ子、松浦賢長、山本真由美、西尾彰泰、堀田亮、川島恵子:大学における結婚、出産のライフデザインのための不妊や月経に関する教育の必要性、日本思春期学会、2014年8月、筑波
 - 2) Ruriko Miyashita, Masayo Takada, Akihiro Nishio, Syuhei Ikai, Hiroaki Yoshikawa, Kencho Matsuura, Fumi Hayashi, Yumi Adachi, Tadahiro Sado, Ryo Horita, Mayumi Yamamoto: Need for Education on Pregnancy, Infertility, and Menstruation for High School and University Students' Life Plan Regarding Marriage and Maternity, ICMAPRC, Yokohama, 2015.7(予定)

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

表 1 . 校種と経済状態の自己認識 (n.s.)

			経済状態		合計
			中の中より上	中の下より下	
校種	高校生	度数	1228	570	1798
		校種の%	68.3%	31.7%	100.0%
	大学生	度数	829	345	1174
		校種の%	70.6%	29.4%	100.0%
合計		度数	2057	915	2972
		校種の%	69.2%	30.8%	100.0%

表 2 . 経済状態の自己認識と自分の健康状態の認識 (p<0.001)

			自分の健康状態についてどのように感じるか					合計
			とても良い	まあ良い	どちらともいえない	あまり良くない	良くない	
経済状態	中の中より上	度数	343	1014	395	258	44	2054
		経済状態の%	16.7%	49.4%	19.2%	12.6%	2.1%	100.0%
	中の下より下	度数	110	405	205	148	45	913
		経済状態の%	12.0%	44.4%	22.5%	16.2%	4.9%	100.0%
合計		度数	453	1419	600	406	89	2967
		経済状態の%	15.3%	47.8%	20.2%	13.7%	3.0%	100.0%

表 3 . 経済状態の自己認識と自分の健康への関心 (n.s.)

			自分の健康について関心があるか					合計
			非常に関心がある	まあ関心がある	どちらでもない	あまり関心がない	全く関心がない	
経済状態	中の中より上	度数	334	1080	412	151	77	2054
		経済状態の%	16.3%	52.6%	20.1%	7.4%	3.7%	100.0%
	中の下より下	度数	145	474	172	87	35	913
		経済状態の%	15.9%	51.9%	18.8%	9.5%	3.8%	100.0%
合計		度数	479	1554	584	238	112	2967
		経済状態の%	16.1%	52.4%	19.7%	8.0%	3.8%	100.0%

表4．経済状態の自己認識と自分の体型に対する意識 (p<0.01)

	自身の体型について気になるか					合計	
	非常に気になる	やや気になる	どちらでもない	あまり気にならない	全く気にならない		
経済状態 中の中より上	度数	474	718	299	319	238	2048
	経済状態の%	23.1%	35.1%	14.6%	15.6%	11.6%	100.0%
中の下より下	度数	264	330	111	125	81	911
	経済状態の%	29.0%	36.2%	12.2%	13.7%	8.9%	100.0%
合計	度数	738	1048	410	444	319	2959
	経済状態の%	24.9%	35.4%	13.9%	15.0%	10.8%	100.0%

表5．経済状態の自己認識と喫煙行動 (n.s.)

	過去1ヶ月間に1回でもタバコを吸ったか		合計	
	吸った	吸わなかった		
経済状態 中の中より上	度数	55	1095	1150
	経済状態の%	4.8%	95.2%	100.0%
中の下より下	度数	37	500	537
	経済状態の%	6.9%	93.1%	100.0%
合計	度数	92	1595	1687
	経済状態の%	5.5%	94.5%	100.0%

表6．経済状態の自己認識と飲酒行動 (n.s.)

	過去6ヶ月間に平均して週1回以上お酒を飲んだか		合計	
	飲んだ	飲まなかった		
経済状態 中の中より上	度数	261	891	1152
	経済状態の%	22.7%	77.3%	100.0%
中の下より下	度数	102	433	535
	経済状態の%	19.1%	80.9%	100.0%
合計	度数	363	1324	1687
	経済状態の%	21.5%	78.5%	100.0%

表7 . 経済状態の自己認識と運動 (n.s.)

			過去6ヶ月間に、「歩く」程度の運動を1日平均1時間以上したか		合計
			していた	していない	
経済状態	中の中より上	度数	1399	643	2042
		経済状態の%	68.5%	31.5%	100.0%
	中の下より下	度数	621	292	913
		経済状態の%	68.0%	32.0%	100.0%
合計		度数	2020	935	2955
		経済状態の%	68.4%	31.6%	100.0%

表8 . 経済状態の自己認識と普段の食生活 (食事時間の楽しさ) (p<0.01)

			普段の食生活について当てはまること_食事時間が楽しい					合計
			あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらともいえない	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない	
経済状態	中の中より上	度数	953	615	349	74	48	2039
		経済状態の%	46.7%	30.2%	17.1%	3.6%	2.4%	100.0%
	中の下より下	度数	361	283	193	44	33	914
		経済状態の%	39.5%	31.0%	21.1%	4.8%	3.6%	100.0%
合計		度数	1314	898	542	118	81	2953
		経済状態の%	44.5%	30.4%	18.4%	4.0%	2.7%	100.0%

表9 . 経済状態の自己認識と普段の食生活 (食事時間の待ち遠しさ) (n.s.)

			普段の食生活について当てはまること_食事の時間が待ち遠しい					合計
			あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらともいえない	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない	
経済状態	中の中より上	度数	698	592	543	123	81	2037
		経済状態の%	34.3%	29.1%	26.7%	6.0%	4.0%	100.0%
	中の下より下	度数	292	269	239	74	40	914
		経済状態の%	31.9%	29.4%	26.1%	8.1%	4.4%	100.0%
合計		度数	990	861	782	197	121	2951
		経済状態の%	33.5%	29.2%	26.5%	6.7%	4.1%	100.0%

表 10 . 経済状態の自己認識と普段の食生活（食卓の雰囲気は明るさ）（ $p<0.001$ ）

			普段の食生活について当てはまること_食卓の雰囲気は明るい					合計
			あてはまる	どちらかとい えばあてはま る	どちらともい えない	どちらかとい えばあてはま らない	あてはまらな い	
経済状態	中の中より上	度数	718	616	509	123	70	2036
		経済状態の%	35.3%	30.3%	25.0%	6.0%	3.4%	100.0%
	中の下より下	度数	243	272	248	78	72	913
		経済状態の%	26.6%	29.8%	27.2%	8.5%	7.9%	100.0%
合計		度数	961	888	757	201	142	2949
		経済状態の%	32.6%	30.1%	25.7%	6.8%	4.8%	100.0%

表 11 . 経済状態の自己認識と普段の食生活（食事に対する満足感）（ $p<0.001$ ）

			普段の食生活について当てはまること_日々の食事に満足している					合計
			あてはまる	どちらかとい えばあてはま る	どちらともい えない	どちらかとい えばあてはま らない	あてはまらな い	
経済状態	中の中より上	度数	819	642	373	128	70	2032
		経済状態の%	40.3%	31.6%	18.4%	6.3%	3.4%	100.0%
	中の下より下	度数	298	284	210	80	39	911
		経済状態の%	32.7%	31.2%	23.1%	8.8%	4.3%	100.0%
合計		度数	1117	926	583	208	109	2943
		経済状態の%	38.0%	31.5%	19.8%	7.1%	3.7%	100.0%

表 12 . 経済状態の自己認識と小学生の頃の食事に対する印象（ $p<0.001$ ）

			小学生のころ、食事が楽しく心地よかったという印象はあるか					合計
			持っている	どちらかとい えば持っている	どちらともい えない	どちらかとい えば持ってい ない	全く持ってい ない	
経済状態	中の中より上	度数	1170	541	233	78	28	2050
		経済状態の%	57.1%	26.4%	11.4%	3.8%	1.4%	100.0%
	中の下より下	度数	389	256	162	70	38	915
		経済状態の%	42.5%	28.0%	17.7%	7.7%	4.2%	100.0%
合計		度数	1559	797	395	148	66	2965
		経済状態の%	52.6%	26.9%	13.3%	5.0%	2.2%	100.0%

表 1 3 . 経済状態の自己認識と普段の食生活（野菜料理の摂取行動）（n.s.）

			1日に野菜料理を何皿食べているか					合計
			ほとんど食べていない	1~2皿	3~4皿	5~6皿	7皿以上	
経済状態	中の中より上	度数	272	1268	366	77	67	2050
		経済状態の%	13.3%	61.9%	17.9%	3.8%	3.3%	100.0%
	中の下より下	度数	149	530	162	40	34	915
		経済状態の%	16.3%	57.9%	17.7%	4.4%	3.7%	100.0%
合計		度数	421	1798	528	117	101	2965
		経済状態の%	14.2%	60.6%	17.8%	3.9%	3.4%	100.0%

表 1 4 . 経済状態の自己認識と結婚に対する考え（ $p<0.001$ ）

			結婚に対する考え			合計
			いずれ結婚するつもり	一生結婚するつもりはない	考えたことがない	
経済状態	中の中より上	度数	1685	70	277	2032
		経済状態の%	82.9%	3.4%	13.6%	100.0%
	中の下より下	度数	680	51	172	903
		経済状態の%	75.3%	5.6%	19.0%	100.0%
合計		度数	2365	121	449	2935
		経済状態の%	80.6%	4.1%	15.3%	100.0%

表 1 5 . 経済状態の自己認識と子供を持つことの希望（ $p<0.01$ ）

			将来、子供がほしいか		合計
			子供は欲しくない	子供は欲しい	
経済状態	中の中より上	度数	231	1786	2017
		経済状態の%	11.5%	88.5%	100.0%
	中の下より下	度数	132	762	894
		経済状態の%	14.8%	85.2%	100.0%
合計		度数	363	2548	2911
		経済状態の%	12.5%	87.5%	100.0%

表 1 6 . 経済状態の自己認識と家庭の築き方 (p<0.001)

			自分が育ったような家庭を自分も築きたいと思うか			合計
			思う	思わない	わからない	
経済状態	中の中より上	度数	1172	404	470	2046
		経済状態の %	57.3%	19.7%	23.0%	100.0%
	中の下より下	度数	308	350	253	911
		経済状態の %	33.8%	38.4%	27.8%	100.0%
合計		度数	1480	754	723	2957
		経済状態の %	50.1%	25.5%	24.5%	100.0%

表 1 7 . 経済状態の自己認識と知識 (不妊の定義) (n.s.)

			不妊の定義を知っているか		合計
			知っていた	知らなかった	
経済状態	中の中より上	度数	598	1445	2043
		経済状態の %	29.3%	70.7%	100.0%
	中の下より下	度数	259	652	911
		経済状態の %	28.4%	71.6%	100.0%
合計		度数	857	2097	2954
		経済状態の %	29.0%	71.0%	100.0%

表 1 8 . 経済状態の自己認識と知識 (妊よう力の低下) (p<0.05)

			30歳を過ぎると妊よう力が低下することを知っていたか			合計
			よく知っていた	少しは知っていた	全く知らなかった	
経済状態	中の中より上	度数	534	1074	433	2041
		経済状態の %	26.2%	52.6%	21.2%	100.0%
	中の下より下	度数	224	524	161	909
		経済状態の %	24.6%	57.6%	17.7%	100.0%
合計		度数	758	1598	594	2950
		経済状態の %	25.7%	54.2%	20.1%	100.0%

表 19 . 経済状態の自己認識と知識（不妊治療の成功率）（n.s.）

			年齢とともに不妊治療の成功率は低下することを 知っていたか			合計
			よく知っていた	少しは知っていた	全く知らなかった	
経済状態	中の中より上	度数	375	994	664	2033
		経済状態の%	18.4%	48.9%	32.7%	100.0%
	中の下より下	度数	148	456	306	910
		経済状態の%	16.3%	50.1%	33.6%	100.0%
合計		度数	523	1450	970	2943
		経済状態の%	17.8%	49.3%	33.0%	100.0%

表 20 . 経済状態の自己認識と避妊方法の選択意向（n.s.）

			安全な性交渉のため選択する避妊方法					合計	
			コンドーム	ピル	女性用コンドーム	射精までに至らないよう性交する方法	排卵日を選ぶ方法(野式)		その他
経済状態	中の中より上	度数	1246	183	18	33	34	19	1533
		経済状態の%	81.3%	11.9%	1.2%	2.2%	2.2%	1.2%	100.0%
	中の下より下	度数	556	87	11	22	15	11	702
		経済状態の%	79.2%	12.4%	1.6%	3.1%	2.1%	1.6%	100.0%
合計		度数	1802	270	29	55	49	30	2235
		経済状態の%	80.6%	12.1%	1.3%	2.5%	2.2%	1.3%	100.0%

表 21 . 【女子のみ】経済状態の自己認識と月経痛の経験（過去6か月）（n.s.）

			過去6ヶ月間で生理痛があったか				合計
			全くない	あまりない	あった(日常生活に支障がない程度)	あった(しばしば学校や仕事を休みたくなるほど)	
経済状態	中の中より上	度数	88	158	545	317	1108
		経済状態の%	7.9%	14.3%	49.2%	28.6%	100.0%
	中の下より下	度数	40	62	231	150	483
		経済状態の%	8.3%	12.8%	47.8%	31.1%	100.0%
合計		度数	128	220	776	467	1591
		経済状態の%	8.0%	13.8%	48.8%	29.4%	100.0%